

グループホームエルーセラ

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400354		
法人名	医療法人社団桑崎会		
事業所名	グループホームエルーセラ		
所在地	栃木県佐野市免鳥町496 (電話) 0283-20-4501		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成21年12月9日

【情報提供票より】(平成21年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日、平成15年3月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	8 人	常勤6人(兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算7.25人	
	8 人	常勤6人(兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.5人	
	8 人	常勤6人(兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算7.25人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日用品費—158円/1日</li> <li>公益費—473円/1日</li> <li>光熱費—368円/1日</li> <li>理美容代—1,500円</li> <li>おむつ代—持込可能、施設内購入も可能</li> </ul>
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	315 円	昼食 420 円
	夕食	420 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年9月30日現在)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護1	6 名	要介護2	12 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野医師会病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「エルーセラ」とはギリシャ語で自由を意味し、3ユニットとも珊瑚色で統一し、市街からほど近く、水田や桃、梨等の果物農家の多い静かな郊外にある。1500坪と広い敷地に桜などが植えられ、入居者と職員が共に育てる家庭菜園や花壇がある。日中敷地内で日向ぼっこや散歩する姿が見られた。利用者一人ひとりの要望に応え、役割を大切に考え、豊かな生活を支援している。月2回の寿司の日、月1回のバイキング、あずきごはん、茶碗蒸しの日等が設けられ、入居者及び職員も期待するほどであり、食事の提供に力を入れている。地域の行事や事業所の納涼祭など地域の人との交流も増えており、運営推進会議などを通じて地域に密着した運営に努めている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果は所内の研修会議で職員に伝達を行い、職員の見えるところに掲示している他、運営推進会議でも報告を行っている。改善点の取り組みとしては、地域との交流がより深まったことや職員を1日掃除の当番にあてるなど、出来ることから改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員の意見を聞きながら、管理者と各ユニットのリーダーが中心となりまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、入居者、入居者家族代表、自治会や地域の方、市担当職員等の参加のもとに2ヶ月に1回開催しており、活動状況、入居者の状況報告や話し合いなどを行い、そこでの意見や要望を運営に取り入れている。ホームでは、議題や参加者や会議の方法をさらに検討し、より充実した会議にしたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の健康状態等は、家族の面会時に報告しており、来所が無い場合には電話で報告をしている。職員の異動については、適宜報告しており、職員の紹介やホームの行事、入居者の活動状況などは広報誌「エルーセラだより」に載せている。金銭管理は行っておらず、必要な時はホーム側が立替払いを行い家族に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、町内の運動会や花見に参加している他、地域の葬式にも職員が2名で参列している。ホーム主催の納涼祭や歌謡ショーには、地域住民が大勢来所されている。地域住民からは、枝豆、西瓜、柿、梨などの差入れや、野菜の作り方を教えていただくこともあり、地域の人々との交流を大切にしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5年ほど前に職員の話合いによって「誠意をもって接する」「個別のケアを重視する」「日々穏やかに過ごせるように支援する」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの各ユニットの玄関にいつでも見えるよう理念を掲示している。日々の申送りや会議等でも理念の確認を行っており、職員の意識を高め、理念に基づいた支援の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、町内の運動会や花見に参加している他、地域の葬式にも職員が2名で参列している。ホーム主催の納涼祭や歌謡ショーには、地域住民が大勢来所されている。地域住民からは、枝豆、西瓜、柿、梨などの差入れや、野菜の作り方を教えていただくこともあり、地域の人々との交流を大切にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は所内の研修会議で職員に伝達を行い、職員の見えるところに掲示している他、運営推進会議でも報告を行っている。改善点の取り組みとしては、地域との交流がより深まったことや職員を1日掃除の当番にあてるなど、出来ることから改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員の意見を聞きながら管理者と各ユニットのリーダーが中心となりまとめている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者、入居者家族代表、自治会や地域の方、市担当職員等の参加のもとに2ヶ月に1回開催しており、活動状況、入居者の状況報告や話し合いなどを行い、そこでの意見や要望を運営に取り入れている。ホームでは、議題や参加者や会議の方法をさらに検討し、より充実した会議にしたいと考えている。	○	ホームとしては地域の様々な人たちの参加も得て、有意義なテーマの設定を行い、より内容のある運営推進会議にしたいと考えている。市担当職員等の参加もあることから、色々な情報を得て、今後の会議の持ち方を工夫するなどして、よりサービスの向上に繋げることに期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの空き情報の提供や利用者の各種申請など事務手続き等の機会に、管理者が市担当職員への報告、相談を行っている。また、併設の老人保健施設も同様に市への窓口になっている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員に代わり市職員が参加するようになった。	○	運営推進会議に市職員が参加するようになったこともあり、市との連携をより密にして共に協力することにより、地域に密着したサービスが向上することを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態等は、家族の面会時に報告しており、来所が無い場合には電話で報告をしている。職員の異動については、適宜報告しており、職員の紹介やホームの行事、入居者の活動状況などは広報誌「エルーセラだより」に載せている。金銭管理は行っておらず、必要な時はホーム側が立替払いを行い家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に苦情・相談等の受付方法について掲示し、意見箱も設置しているが、これまで意見箱へ意見や苦情等は出された事は無い。様々な機会を捉えて家族等からの意見を把握して運営に反映させたいと考えている。	○	ホームでは、家族の面会時や広報誌、運営推進会議などを通して情報提供を行い、意見や苦情の把握に努めている。今後もさらに、家族等に本意を寄せてもらえるような工夫を期待したい。また、重要事項説明書にも外部の苦情受付機関を掲載するなどの検討も期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム側の方針で職員の異動はほとんど無いが、離職者が出た時はすぐに補充している。異動等があった場合は、入居者には自然体で接し、やさしい言葉かけで、動揺させないように配慮している。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアルを渡して説明するとともに日常業務を通して勉強している。2ヶ月に1回内部で、救急法や認知症の対応などの勉強会を実施し、内外の講師による実務に合ったテーマを学んでいる。また、外部研修への参加は年1回であるが順番に受けられるよう配慮しており、研修参加後には伝達研修を実施して知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、年4回の会合に出席している。全国の協会にも加入しているが、会議や研修会等の参加については検討しているところである。現在、市内の同業者は増えてきており、相互訪問の機会はあるが、ネットワークづくりはこれからと考えている。	○	市内に同業者が増えてきており、相互訪問を行うなど熱心な交流が伺える。今後、さらに交流を深め、ネットワークづくりに向けたリーダーシップの発揮を期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、本人、家族にホームの見学及び説明を行い、十分な理解が得られてから入居を開始している。入居後も本人の意思を確認しながら、希望に合わせた対応に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	広い敷地内での野菜畑の作業を職員も共に行い収穫を楽しんだり、手話体操なども一緒に楽しんでいる。洋裁、生け花、絵画等の得意な人もおり、職員も刺激を受けている。「人のためは我がため、何でもやったほうがいいよ」といつも言って実践している人がいるなど入居者から教えられることも多い。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族の来所時に家族の意見を聞いたり、日常生活の中で本人の意向を察知するよう努め、本人が望む過ごし方が出来るように支援している。希望に基づき変化のある楽しい食事ができるような工夫をしたり、外出や諸行事等も計画し支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が2～3人の入居者を担当しており、本人、家族の希望や意向を詳細に聞き取り、毎月開催しているサービス担当者会議で話し合いを行い、それらの情報を元に担当者とケアマネジャーで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに実施しているが、毎月のサービス担当者会議においても本人の状態の確認を行い、入居者の状態に変化があった時には、家族に説明を行い、随時見直しを行っており、見直しにあたっては家族から了解のサインをもらっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、通院支援を行ったり、リハビリ通所を支援している。法人の理学療法士や作業療法士に来てもらう配慮もしている。また、美容師に来てもらったり、家族の依頼で美容師に迎えに来てもらうことも行われている。		

グループホームエルーセラ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診の支援を行っている。家族が同行できない場合は職員が同行し結果を面会時等に報告している。近くに母体法人のクリニックがあり希望者は受診したり、回診してもらっている。急な場合は病院に搬送しているが、その際かかりつけ医に意見をもらうなどしてスムーズな受診につなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針、看取りに関する指針を定めており、文章化している。家族の希望を確認しており、全職員で状態を把握し、状態の変化時の対応方法について話し合いを行い、方針の共有化を図っている。今までに看取りの例はないが、ぎりぎりまで支えた例はあることから、管理者は、看取りに関してはこれからの課題と考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者へ家族的な雰囲気ですべて接しているが、排泄や着替えなどはプライバシーに配慮した支援をしている。言葉かけも「さん付け」で対応しており、本人の嫌がる事はしない様に配慮している。記録等の個人情報の書類はスタッフルームにて管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	消灯は21時としているが23時までテレビを見ている人もいる。食事の仕方も一人ひとりのペースに沿った支援をしている。訪問日にはおかゆを希望する人もいて対応していた。天気の良い日は広い敷地の中を気ままに散歩したり、気の合う人と日向ぼっこする姿も見られた。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園でとれた野菜を使い、可能な人は食事作りに参加し、皮むきや盛付け、配膳、片付けなど一緒に行っている。怪我をしないよう先の丸いハサミを使用するなど配慮している。また、毎月寿司の日、バイキング、あずきごはんと茶碗蒸しの日を設けたり、店屋物を取るなど、食事が楽しくなる工夫をしている。職員は入居者と一緒と同じ物を食べており、さりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日に4名程度のペースで入浴を行っており、最低でも週2回の入浴ができるよう支援している。中には毎日入浴する入居者もあり、365日入浴できるように支援している。入浴には、職員1人がマンツーマンで対応しており、入居者の出来ないことを支援している。風呂が嫌いな人、大好きだが血圧が高い人、それぞれに合わせた工夫をして本人が入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内の桜の木等の木々や植え込み、草花、野菜畑などのあるスペースで自由に散策を楽しんでいる。新聞配りが日課の人、食事のメニュー書き、絵や創作物の名人、生け花を作って各館に持っていく人、食事の時のテーブルや食器拭き、手の消毒係、床拭き後のイスの戻し役など、入居者それぞれの役割がある。役割を担っている人は、みんなからの「ありがとう」の言葉が嬉しいという。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1500坪の広い敷地があるため、毎日ホームの敷地内を朝・昼・晩と散歩する人もいる。外食、花見、買い物、通院等の支援も行っている。桜の開花時期には、ホーム内の芝生で食事を楽しむこともある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関の鍵は開放し職員の見守りで対応しているが、門だけは安全を配慮して鍵をかけている。下からもぐって出たり、飛び越えたりした入居者がいたことから、危険防止と安全性に考慮しこのような対応をしている。		

グループホームエルーセラ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防設備の点検を含め火災等を想定した避難訓練を行っている。消防署や業者の協力を得ている他、地元の自治会長や組合長など地域住民の応援や参加もある。運営推進会議も検討の場として活用している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士は、各部署の意見を考慮し、バランスのとれた献立を作り、その指示のもとに食事を提供している。一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている。水分補給は、自由にお茶が飲めるように準備してある。食事摂取量は毎回記録しており、体重は月1回のチェックを行っている。入居時に食べられなかった人が内部での十分検討や支援に努めた結果、食べられるようになり、家族の理解を得た例もある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、前事務長手作りの造花が飾られている他、敷地の花壇で育てた草花などを入居者や職員が飾ったり、四季に合わせた製作物のディスプレイを共に飾るなど、季節感を出している。天窓も活用し明るく、一部高窓をふさいで日差しを軟らかくする配慮もしている。毎朝、換気を行い、空気のだよみも感じられない。ホールには、椅子、ベンチ、ソファが置かれている他、畳の部分もあり、各々がくつろげる配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は床で、タンス、ベッド、エアコン、押入れはホームで予め用意している。使い慣れたもの等の持ち込みは自由であり、テレビや冷蔵庫などが持ち込まれている。以前には、仏壇やご主人の写真を持ち込む人もいた。自分の作品を部屋に飾ったり、化粧品を置く人もおり、職員も支援を行いながら、居心地良い居室の工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。